

2021年度 公開学習会「是旃陀羅」開催要項

1922年、全国水平社が創立された当初より、『仏説観無量寿経』（以下、『観経』）に説かれる「是旃陀羅」の語の差別性について、宗門の見解と語句訂正も含めた徹底的な検討と善処が要請されてきました。しかしながら今なお、その語がもつ差別性に対しての宗門の見解を不十分とし、明確な返答が待ち望まれています。そのことは、仏の教えを聞く者としての姿勢が、私たち真宗僧侶に今なお問われ続けているといえます。

また近年においては、『観経』序分の学習テキスト『現代の聖典 学習の手引き』（東本願寺、1999年）の「是旃陀羅」の解説をめぐって、2013年1月、部落解放同盟広島県連合会（以下、広島県連）より、その記述内容に誤りがあるとする指摘とその訂正の要請、また多くの問題提起が私たち宗門に投げかけられています。

その問題提起として、真宗大谷派の教学・教化において、鎌倉時代から「是旃陀羅」の語を「穢多・非人」と結びつけ、幾多の差別観念を繰り返し生み出し続けてきた歴史的罪責と課題、また『学習の手引き』の「差別発言はあるが『観経』は差別経典ではない」（344頁）という『観経』の「経典」観に対する問題提起などがあります。

広島県連からの厳しい指摘は、同時に私たち僧侶一人ひとりに対する切実な願いに他なりません。それは宗祖が歩まれた本願念仏の仏道に出会うことなくして、自他が共に救われていく道はない、という人類の根源的な叫びとして、その指摘を受けとめております。人間存在がもつ差別意識は、教えによって知らされることになれば、自己の差別意識から一歩も出ることは全く不可能でありましょう。

宗祖親鸞聖人は、『観経』を真宗正依の経典、すなわち人類救済の平等の法を説く経典として讃嘆されております。その経典に説かれる「是旃陀羅」という差別語について学ぶことを通して、あらためて宗門に属する僧侶一人ひとりにおいて、同朋社会の顕現の切なる願いの根源である「真宗の僧伽」という人類の願いの中で、共に生きるとは如何なることであるのか、そのことを考えていく機会といたしたく存じます。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

研修趣旨 『仏説観無量寿経』に説かれる「是旃陀羅」の問題について学習し、自己のあり方を問い返すと同時に、同朋社会の顕現につとめていくとは如何なることを学ぶ。

日時 2022年2月17日（木）15時30より（受付：15時～）

会場 集会型：北海道東本願寺会館（北海道教務所）2階 講堂（先着順35名）
（札幌市中央区南7条西7丁目290 ☎011-511-5211）
オンライン配信（ZOOM配信）：各寺院・自宅等

講師 宮下 晴輝 氏（大谷大学名誉教授）

講題 仏教経典における社会差別批判と差別表現

スタッフ 池浦良敬（同朋教化部門幹事・第16組順敬寺）
鳥毛浄生（研修部会長・第17組蓮生寺）
宝喜智明（南第3組光徳寺） 奥村 翔（第4組選教寺）
泉 敬之（第5組願成寺） 曾我隆信（第7組専行寺）
平 祐紀（第10組能入寺） 畠山智光（第15組真宗寺）
楠 宏生（第16組正行寺） 芳藤啓順（第20組顯正寺）
辻内野悠（根室別院）

事務局 鷺嶺彰宏（教区駐在教導）・中西志香（教区駐在教導）
寺林如江（教区青少幼年指導主任）

参加対象 僧侶・寺属

参加費 無料

持参品 『真宗聖典』、筆記用具

服装 僧侶の方は、間衣・輪袈裟（畳袈裟可）をご着用ください。なお、ジャージ・ジーンズ等の軽装はご遠慮ください。

申込方法 参加希望者は教務所宛てに 2月10日（木）必着。
別紙の申込用紙をFAX（011-512-3929）、または郵送にてご送付ください（※FAXの場合は、送信後教務所に確認のお電話をおかけください）。
また、申込用紙にあるQRコードからも申し込むことができますので、ご活用ください。

※教師陞補に必要な受講証（2種）の発行を希望される方には、レポートの提出をいただきます。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、北海道教務所にて参加される方については、入館時に検温、マスクの着用、手指消毒等の協力をお願いいたします。
当日の体温が37.5度以上、または平熱に比して1度以上高い場合は入館できませんので、日常の体調管理を徹底しご参加くださいますようお願い申し上げます。

※状況により、当学習会の全てがオンライン配信（ZOOM配信）となる場合があります。

※その他ご不明な点がございましたら、北海道教務所（担当：鷺嶺・中西）までお問い合わせください。

【 日 程 】	
15時00分	受 付
15時30分	開 講 式
15時45分	趣旨説明
16時00分	講 義 （途中休憩）
18時00分	質疑応答
18時30分	閉 講 式

主催 真宗大谷派北海道教区教化委員会 教化本部 同朋教化部門 研修部会